

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立 山辺小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成 15 年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

・ 一部、計画通り実施できていない

・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

・ 実施していない

(3) 自校における評価

- ・ 第 1 学年からの英会話学習の実践により、次学年以降の英語学習において、覚えている単語を積極的に使おうとする取り組みがうかがえる。
- ・ 第 1 学年からの英会話学習の実践、また、ALT や EAA との学習により、外国語や外国の文化を身近に感じることができ、興味関心にもつながっている。
- ・ 英会話学習の時間において聞いたり会話したりする活動の積み重ねにより、英語に対する抵抗がなく、発音の活動等にも楽しみながら参加している。
- ・ 児童と ALT・EAA との授業・授業外でのコミュニケーションが図られ、良好な関係により授業の活動にも意欲をもって取り組んでいる。

(4) 学校関係者による評価

〈児童〉

- ・ ALT や EAA の先生と英語で話せたり、先生の言ったことが分かったりしたときにうれしい。
- ・ 歌ったり、体を動かしたり、みんなと一緒に発音したり、いろいろな活動をしながら英会話の学習をするのが楽しい。
- ・ 知らなかった外国の言葉や文化などを知ることができるので、外国に興味をもてる。

〈保護者〉

- ・ 低学年のうちから外国人の ALT や EAA の先生と直接触れあいながら学習する機会があることで、英語を身近に感じ、国際的な視野を広げる機会になっていると思う。
- ・ 歌やゲームを取り入れた授業のおかげで、英語に苦手意識をもたずに学習できているようだ。

3. 実施の効果及び課題

- ・ ALT 等との打ち合わせや教材準備の時間の確保を引き続きしっかりと確保しながら進めていきたい。
- ・ 低学年の活動は年間 10 時間だけなので、効果的な学習になるよう、指導方法や教材を工夫していく。
- ・ 児童の実態に応じて、英語で表現したり、交流したりする活動をさらに充実させたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・ 現在の取り組みを続けながら、ALT や EAA が校内にすることで、日常的に触れあう機会を増やし、英語を使ったコミュニケーションの機会としていく。
- ・ 他校での授業の様子を参観するなどして、実践的な教員研修を行う。